

2019年5月24日（金）

有志の会の発足と思考実験

青江より ～はじめに・シンポジウムでの主催者の気づき～

・去年1年間は、課題やアイデアをみんなで話し合っ共有してきた。今年は、実際に市民の力でそれを実践していく。

<1回目：地域防災>

- 地域の防災力を高めるために、多世代交流、特に若者の参加が求められている
- 共助精神を養う基点に楽しさが必要
- 顔の見えるつながり合う日々の暮らし方が、地域防災には大事

<2回目：小商い～食糧と経済の循環>

- 経済（商売）が、自己利益ばかりが追究される時代の中で、社会資本（地域にとっての利益）をどう創っていくかを考え、大切にする。例えば、経済においても岡山に移住したくなるようなルールのようなものも作りたい

<3回目：水と緑のネットワーク>

- 生態系サービス、自然の力を上手に活用することが、地域防災や減災に貢献でき、また町の持続可能性を高めていける
- 自然の循環の仕組みを暮らしに取り入れる（パーマカルチャー）

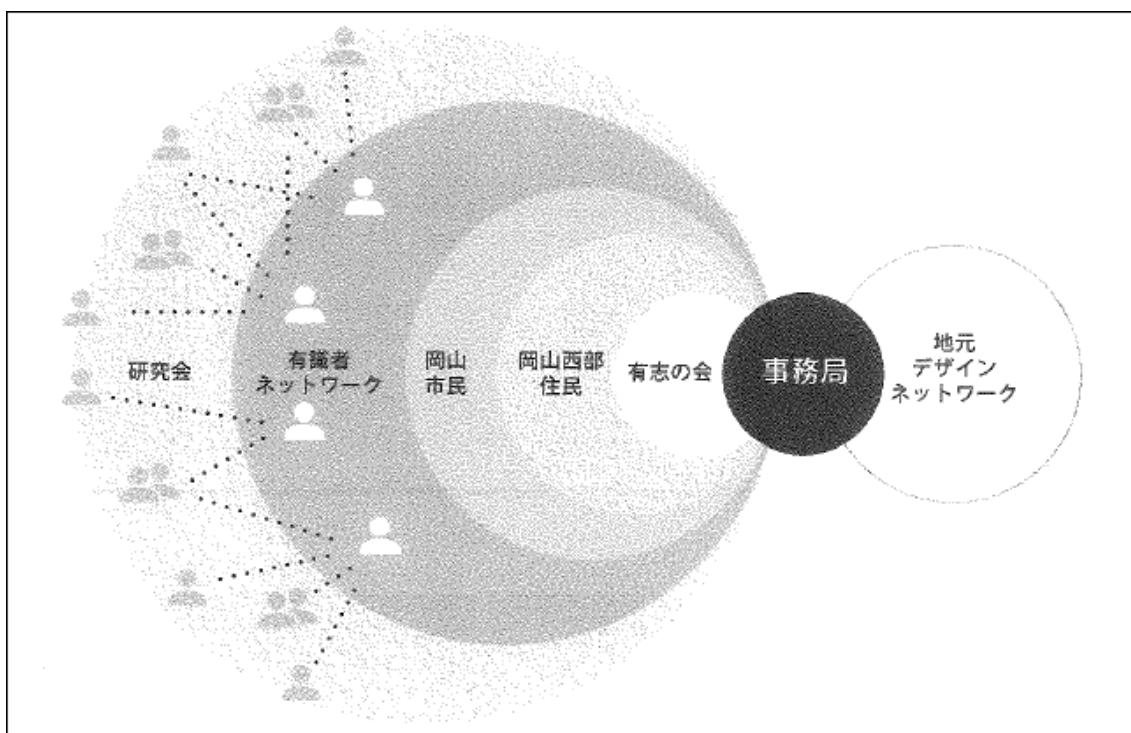
<4回目：エネルギー>

- 「地域に必要なエネルギーは地域で創る」ことが、地域も国にも今求められている。この町でどうやって実現できるのかを考えて行く

<5回目：ビジョンを描く>

- 来年度（2019年）具体的なかたちにしていくために、有志の会を作る
- 有志の会で出たアイデアの具現化を、去年シンポジウムに参加された建築家の天久さんと竹下さんとともに、「地元デザインネットワーク」で行っていく

- 「暮らしやすさの率先」をテーマとし、考えを現実のかたちにしていく作業を1年間試みる
- 場所は、北長瀬の公園の東側にある「みずほ住座市営住宅団地の跡地（予定地）」
- 岡山市にも報告・提案しており、市も見守ってくれている状況
- 不足している視点は、左側の有識者ネットワークの方からも補っていく



有志の会メンバー自己紹介と関わり方

・**枝廣**：全国の地域でお手伝いをしている。国の委員会も出ているので、考え方や使える話をつなげていきたい。

・**加藤**：生態学をベースにした土地利用とかランドスケープについて考え方やアドバイスができる。都道府県や広い範囲の流域、緑地及びオープンスペースの空間配置などの理論が専門。ランドスケープのコンセプトを提供はできるので、専門の建築の方、土木の方、水利工学の方々と共同して、実際のかたちにしていくプロセスに貢献したい。

・**近藤**：生活者に一番近く、生活者の嗜好の変化を15年体験してきていることの経験が、今回参加する意味と考えている。商店のコミュニティや環境への意味も大きく感じているので、その中で私の経験が活かされたらよい。

・**廣本**：北長瀬の新しい地域が、将来、持続可能な脱炭素地域として示せるような先進事例にできれば良い。

・**天久**：設計事務所を経営している。仕事をしてきたなかで、周りがぼやっとしてところがシンポジウムを体験してきて、かたちになりそうな気がしている。

・**竹下**：問屋町で設計事務所を経営している。生活圏もこの辺りで、生活には不自由がないが、物足りなさを感じている。

・**澤井**：今の環境を次世代に残していくのが自分達の役割と思っている。先頭になり、少しでも付いてきてくれる方を増やしていきたい。具体的には、将来の地域づくりと直結している、用水路の維持をどのようにしてくかが課題と思っている。

・**田中**：少子高齢化による人のつながり、連帯感の薄さが課題と考えている。特に次世代や担い手をどうつくるか。この「有志の会と思考実験」で、若者と一緒に新しいことに調整できれば、西部地域が岡山でも活力ナンバーワン地域になるだろう。

・**祇園**：若い世代＝勤労世代。たまの休みが家族サービスの時間となってしまう、地域には関わる時間・興味がない。世代間での理解の違いもある。若い世代に新しいものを見せていく必要があると考えている。まずは自分ためにならばと思い参加したが、自分も何かができるようになってくれば、他に役立つことがでてくるかもしれない。

・**永野**：この地域に住んでいて、小学校高学年の子を持つ親と同世代。上の世代には教えてもらいたい気持ちはあるが、どうアプローチしたらいいかわからないとよく聞くので、「くらしのたね」がそのつなぎ役になれば良い。主婦層・ファミリー層にわかりやすく伝える役割だと思っている。

・**青江**：まちづくりを始めたのは、仕事柄、土地の所有者（地主）と購入者・賃貸契約者（引っ越してくる若い世代）両方を知っているので、自分達が両者をつなぐ役割を担えれば、と思い始めたことがきっかけ。シンポジウムを開催してきてわかったことは、なにより自分自身が楽しいこと、そして、行政に頼るだけではなく、自分達がまず動くことが重要だということ。再開発エリアに予定されている大きな公園を中核とした「みずほ住座跡地」がどうなっていくかを自分なりに考え続けている。若い人から昔からこの町を知っている方々、東京の専門家の方そして、こうした有志の会で集まった色々な方々との関わり合いで進め、実現することが一つのモデルになるのでは、という期待がある。

・三宅：今まで政治にコミットしていない人を巻き込んでいきたい。例えば、土地での境界線でのつながりではなく、川の流域同士でつながり、協力しあえば、経済的にも環境的にももう少し盛り上げられるのではないか。また、みずほ住座跡地で取り入れようとしている、パーマカルチャーや農的ライフスタイルから生まれる都市デザインを観光資源・景観も特に良いわけではない吉備中央町でも入れていく提案をしていきたいと思っている。

みずほ住座跡地について

<新みずほ住座>

- 総合公園隣接
- 14階建て2棟。
- 2019年6月オープン。
- スーパー、フィットネスクラブ、マツキヨ、カフェなど。

<総合公園>

・防災拠点、避難場所に

<みずほ住座跡地を今回候補地に選んだ理由：青江>

- 1) 行政プロジェクトが進行している場所であること
- 2) タイミング的に今やっておくべきだと感じたため

<移転計画>

みずほ住座自体は令和3年3月に今の場所の北側に移転が計画されている。現在のみずほ住座は更地になるが、その後は決まっていない。更地予定の場所は、岡山駅と北長瀬駅の間で、再開発される総合公園のすぐ東隣で、素晴らしい場所。この場所を今まで話し合ってきたような市民アイデアを落とし込み、市民が暮らしやすい町としてのモデル地区にしたい。その市民案を今年12月か、今年度中に行政に提出をしたい。

今後の金銭面について

くらのたね、ミナモト建築工房でできるだけ対応。また、実際の建築に関わることで収益化できれば。もちろん、違うかたちで収益が立てられるようになれば、そちらへシフトしていく。

・コミュニティ、建物をつくる時の資金調達イメージ（案）

- 1) 県といっしょに

2) 民間が購入し、それを住民や商売をする人に販売や賃貸で貸し出す。

3) コミュニティ・ランド・トラスト（市民ファンドでお金を集め、市民団体が維持管理）※研究中

情報共有

枝廣：

● 地域循環共生圏：

「地域循環共生圏」とは、もともと環境省が提唱した考え方で、地域はできるだけその地域にある資源を使うことで、それぞれの地域が自立分散したまちづくりをし、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方。日本の成長戦略の一つにもなっている。「地域循環共生圏」は去年作られた、環境省の第5次環境基本計画の中でも中心的な位置づけになっているため、「地域循環共生圏」を進めていく地域にはさまざまな後押しが行われることになっている。

具体的な後押しの内容はこれからだが、一つには、市民・NGO・企業・行政、対等な形で地域を運営する委員会（地域の運営協議会のようなもの）で、地域資源を活用し、できるだけ外に頼らずにすむ町を実際に作っていくというもので、それを国としても応援していくというものがある。

また、昨年は国のエネルギーの委員会にも出席していたが、環境省と同様に、地域にある資源でエネルギーを作り、賄う地域を応援していくことが、エネルギー庁でも決まっている。地域資源を循環するまちづくりを考えている地域にとって、追い風になる。

<考えるべきポイント>

● 地域防災：

何かがあった時でも、必要なエネルギーがこの地域で作っていけることが大事で、エネルギー庁はそのための補正予算を取っている。この考え方や仕組みを今回の地域でどう生かすかを考えていきたい。

● まちづくり：

更地というゼロベースから関われるのは非常に有利。ゼロから作るので、地域熱を引いたり、道路をどういう風に作っていくかなど、今から計画できるのはプラスなので、有志の会や他の人びとの知恵も集めて理想的な町を考え、実現できたらいい。

● ソフト面：

ハード面のインフラ（電気・ガス・水、エネルギーなど）と人づくりや連帯感、多世代交流といった、賑わいや活力につながるソフト面でのまちづくりも重要なので、この点もしっかり入れる。

- **入居者：**

選んでもらうのもよいが、地域活動に積極的に参加する人は来て欲しい、など選ぶ側でもよいのではないか。

- **シンポジウムでのキーワード：**

これまでのシンポジウムでできたことキーワードをだして、かたちにしていければと考えている。

例)

- ・できるだけ地域資源を活用して、地域の中で回す。
- ・多世代交流ができる場所を作る
- ・古いものを大事にする

など。

情報共有を聞いてのアイデア

- 都市と農。近隣の農家が週末マルシェを行う（直売所、朝市）。伝統の良さと最先端技術の組み合わせ。
- ソフト：多世代交流。託児所、保育園、高齢者住宅の融合。寺子屋、産直、朝市事例
- 高知「とさのさと」（道の駅 農協）公共的な産直、無農薬野菜も選べる
- 奉還町「加茂川ブラザ」安い、田舎の野菜がある。
- 海拔は1.8～2.0くらい。100年位での海面上昇で1.3m上昇の可能性があるので、想定を。
- 地域熱供給、電気のオフグリッドを地域全体でシェア。ポートランドでの「エコディストリクト」のような考えをこの地域で導入できたらよい。3割の建物・敷地の電気を自給自足している、といったら、売りになる。
- 水・エネルギーなどの循環系は、個別や後ではなく、共同・最初に構想すべき。最先端の取り組みをいれていきたい。
- コンセプト「循環が体感できる町」。食べ残し→農家の肥料→育てた野菜→みんなで頂く。
- 岡山にとって新しい観光資源化。地域でも町の真ん中にあったら、効果大きい。
- 祭の開催（1年間通してつながったところのお祝い事）

現地視察の感想

- ・**枝廣**：周りが駐車場とか工場というか、全然緑がない印象。できるだけ縁ある場にする。
- ・**青江**：交通系企業（福山通運、トヨタなど）が隣接しているので、巻き込む。ご近所づきあい&エネルギーでトヨタといっしょにできるかもしれない。
- ・**永野&近藤&三宅**：近所のスーパーが遠い。地産地消のマーケットが欲しい。みずほ住座の年配の方も歩ける距離内に。大きなショッピングモールではなく。売店でなく、商店。デリカーでの販売（県内）
- ・**廣本**：住人の足用のEVの充電設備・住宅
- ・**近藤&加藤**：更地になった所から、全体的に公園的な雰囲気をつくる。住宅は二階建てで、二階は全部緑化・用水を活用したイメージ。
- ・**加藤**：用水を活用したい。一部、結構用水に囲まれ、暗渠になっていたところがあるので、暗渠を取り払って、光を当てて、緩やかな傾斜で水が集まるような水辺空間をつくと、地形的に面白いと思う。まさに、こういうことは最初から計画に入れないとできない。
- ・**竹下**：用水は境目ではなく、共有できる。用水を共有、融合するかたちを目指す。複合施設として、図書館、朝市ができる環境。屋上にソーラーパネルを置いて、電力を自給自足も。操車場跡地に農園という話も出てきているので、そこと整合性を取っていただけるといい。内部の道については、歩行者と自転車が動きまわれるような道にし、逆に車は遠慮して走るような道路にできればいい。

今後の予定

- 1) 建築士（天久氏、竹下氏、青江）と加藤先生でたたき台をつくる。
 - 天久氏、竹下氏、青江で本日の内容を纏め（絵にする）、加藤先生に入ってもらおう。三宅氏、近藤氏、廣本氏には適宜確認をお願いする。
- 2) その後、皆さんとの意見交換（随時）
- 3) 有志案について意見交換会（2019.9）
- 4) 行政提案（2019.12）
 - 次回の有志の会は6月21日（金）16時～
 - 有志の会でのやりとりはグーグルクラウド

- 6月26日（水）は 番外編

マット氏、サワミヤ氏、ジョニー氏のポートランドの3人での食事会で、最新の海外事例など情報交換を行う。

以上